

RSウイルス感染症にご用心！

国立感染症研究所によりますと今年は夏期より増加傾向が認められ、2004年以降のこの時期としては最も多い報告数である状態が続いています。今後、晩秋から冬にかけて更に増加するものと予想され、大流行になるおそれがあります。

どんな病気？

RSウイルスは特に赤ちゃんの細気管支炎や肺炎の原因となるウイルスで2～3歳までの子どもの大部分がかかってしまう感染症です。鼻水から始まり38～39℃の高熱と咳が続き、初めてかかった場合は25～40%の子どもの細気管支炎、肺炎の徴候が見られ、6ヵ月以下の赤ちゃんの場合は呼吸困難などのために重症化して入院が必要になることがあります。母親からの免疫は感染を防ぐことはできません。



潜伏期間

2～8日(通常は4～6日)です。この期間と症状が消えて1～3週間は感染力があります。又、一度かかっても再度感染します。

予防するには・・・

感染者のセキが飛び散ってそれを吸い込んだり、おもちゃなどについて触ったりして眼、のど、鼻の粘膜から感染します。手がウイルスを粘膜に運んでいる場合もあるので手を良く洗うことは予防の第一です。調理や食事の前、鼻をかんだ後などは水と石鹸で手を良く洗いましょう。特に6ヵ月以下の赤ちゃんの場合、流行するこれからの時期、カゼをひいている人から隔離してあげましょう。又、タバコの煙を吸うことはこの感染症の危険因子の一つと考えられていますので特に注意してください。RSウイルス感染症と診断された場合は隔離(欠席を含む)することに加えて、マスクをして咳エチケットをし、手洗い、又は速乾性アルコール消毒液で手指の消毒をしましょう。年長児や大人の感染者は症状が軽くても感染源となりますから、注意してください。



重症化予防薬とは？

感染しても重症化を予防する目的で、早産で生まれた赤ちゃん等を対象に、シナジス(一般名:パリビズマブ)という薬を注射する方法があります。流行期に月一回のペースで注射します。ウイルスが気道の細胞に侵入して増殖するのをおさえるためです。